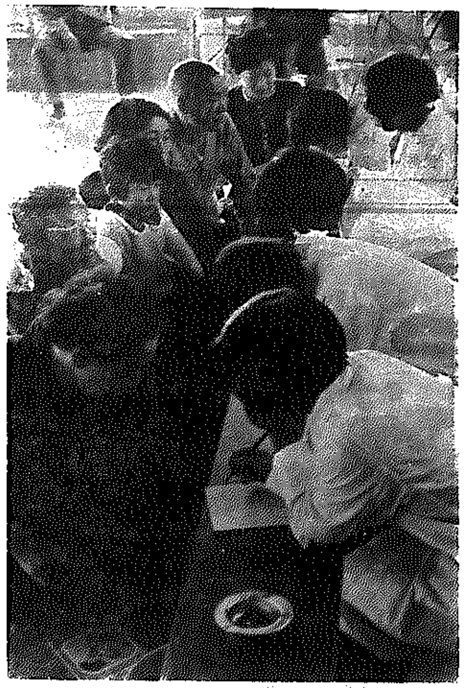
まだ多い成人病

早期発見が治療の決めて

脳卒中、ガン、心臓病など、いわゆる『成人病』と呼ばれる病気は、わが国の死因の上位三位を占め、これらの三疾病だけでも全死亡に占める割合は五六%と、高い比率をしめしています。



本市の場合も同じで、四十八年度の死因別順位は、脳卒中が一位で、死亡二百六十二人中、七十六人が、つづいてガンの五十一人、心臓病が三十四人となっています。

死亡者の年齢層をみると、社会的にも家庭的にも柱となっている、四十歳以降の人がそのほとんどを占め、経済的、社会的損失は計り知れません。

このようなことからも、成人病はこわいもの。

この病気を皆さんの身近な問題としてとらえ、病気についての正しい知識を得ることはもちろん、早期治療、さらに自主的な健康管理を行ない、市や会社などで行なう、健康診断にはかならず受診するよう、心がけなければいけません。

リズムのある正しい生活を

昨年、市で実施した成人病の健康診断では、三千二十人が受診しました。

そのうち医療の必要な人が百九十二人、定期的に検査を受けなければならない人は九十九人となっています。

この中で、注目しなければならないことは、四十歳以下の弱年層の疾患管理対象者が百人もいることです。

原因としては、①若さにまかせての健康管理の怠慢②不規則な日常生活③栄養のアンバランスなどが上げられます。

とくに、高血圧や心臓病はなおりにくい病気です。治ったようにみえても、不せっせいをするとまた、悪くなってしまいます。

自分のからだは、自分が一番よく知っている……という人がいます。

その一番よく知っているはずの人が、少しも知っていないのが、自分の健康状態です。

なにかといえば、栄養剤、疲労回復には○○錠がよくきくなどと、新聞広告でみた薬の宣伝を、はやのみこみして自己診断をする――いちばん危険です。

日常生活は常に心の平静を保ち、リズムにのった規則正しい生活が大切です。

関根図書館長が逝去

ごめいふくを祈ります

市立図書館長として活躍中の関根慶吉さん(六七＝水道町三)が一月十八日、逝(せい)去されました。

関根慶吉さんは昭和四十年四月、図書館長に就任され〝子どものころから読書に親しむ〟ことをモットーに、なくなられるまで約十年近く図書館の発展、充実につくされました。

このほか、九年間にわたり行政相談員としても活躍中でした。

また、地区公民館長などもされ、社会教育活動にも、多年つくされました。

一円が――あなたを保障＊

『新潟県交通災害共済』の更新期が近ずいてきました。

自動車をはじめとする交通機関の発達は、目をみはるものがあります。その反面、交通事故で泣く人も後をたちません。

昨年一年間白根警察署管内で起きた交通事故は二百十件で死者十三人、負傷者三百三十六人となっています。

今年にはいってからも、毎日各地で交通事故が起きており、この一年も……と暗い気持ちにさせられます。

『新潟県交通災害共済』は、万一、不幸にして交通事故にあった場合、少しでも何かに役立ててもらおうと、考えられたもので、発足してから今年で七年目を迎えます。

この交通災害共済へは、市内に住んでいる人なら、年齢に制限なく、どなたでも加入することができます。

掛金は、一人年額三百五十円で、期間は、四月一日から翌年の三月三十一日までです。

もしも事故にあって、死亡した人には五十万円、全治一週間以上の負傷をした場合は、程度により、五千円から三十万円までの見舞金が支給されます。

昨年市内の加入者に支払われた見舞金は、四百二十万円(百四人)となっています。

いつふりかかるかわからないのが、交通事故です。自分一人は絶対/大丈夫と思ってはなりません。

不慮の事故に役立つ交通災害共済に、あなたも加入されることを、おすすめします。

加入、更新の申し込みは、三月三十一日まで交通対策係(☎二一一㊅二二五)で受け付けています。

水洗トイレの点検を

管理が悪いと臭います

最近、市内の各家庭にも水洗トイレが普及してきました。

それにともない「○○さんの便所から悪臭がただよう」などの苦情が、よく聞かれます。

このような場合は、浄化槽の維持管理が不十分といえます。

まず、浄化槽内には空気を十分に送ることが大切です。とくにバッキ型のものは、電気を節約して電源を切っては、せっかくの浄化菌が死んで、悪臭の原因になります。

そのほか、浄化槽内の消毒液がなくなっている、便器の掃除に塩酸などの強薬を、使用しているなどが上げられます。

これらの点検は、維持管理士に委託すれば、月二回巡回して行なってくれます。

また、水洗トイレを設けている家庭には、年二回以上、放流水の検査を、保健所で受けなければならないことが、法律で義務づけられています。

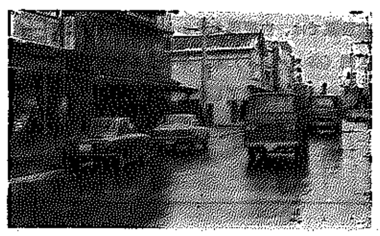
自分の家ばかりを清潔にしても、悪臭で、他の人に迷惑をかけてはなんにもなりません。

なお、設置するときは、かならず市へ届け出て、悪臭の防止につとめてください。

本町通り第四銀行付近

みる今昔 目で白根【18】

本町通りの第四銀行付近です。かすりの着物を着た子どもが道路で遊ぶ〝天下ご免の歩行者天国〟遠い昔のよき時代/今求めても無理のようです。



写真〔上〕昭和10年ころの本町通り
〔下〕そこのけそこのけ車が通る一現在。
(水道町・五十嵐盛喜さん保存)

ふるさと発掘　白根のおいたち (5)

慶長三年に渋川五右ェ門が大郷を、同五年に櫛笥が開拓されたと伝えられている。

この年に関ガ原の合戦があり、豊臣氏の臣荒蕪某が庄瀬に落ちて来たという伝承がある。また同じく、この頃に新発田因幡守の臣、相馬久右ェ門が鋳物の技術を得て十二道島に移住し、長井弥五右衛門が丑崎(牛崎)を開拓したという。これは、残された水はけの悪い中心部に向って開拓が推進されていったことを物語る。

慶長八年(一六〇三)に徳川氏がいわゆる幕藩体制なる軍事政権を樹立したが、溝口氏は外様大名表高六万石として新発田城主に留任し、明治にいたるまで藩政を担当することになった。この頃の小吉島の実高は、六万石に近い生産高があったという。

二代将軍徳川秀忠時代の慶長十二年の記録によれば、白根村の年貢米は約二百石であった。同十六年に新飯田地区が藩主秀勝の次男の伊豆守政一の分地となり、政治的、行政的変動はあったが開発事業は継続強化されていた。

当時の開拓免許状に「急ぎ申し遣し候。河荒地の儀は成り次第開作致すべく候。年貢米は三年、用捨せしむべく候。何程もひらかせ申すべく候。牢人、百姓等は役儀をゆるし遣すべき者なり」とあるように重農が国策として一層拍車がかけられた。

実例を挙げると永禄二年に恵光寺が、同六年(一六二〇)に七右衛門という者が覓新田を開拓した。

さらに寛永十年(一六三三)に越中の人、島倉氏が真木新田を、信州の入山村の保坂氏が保坂を、同十三年に蔵主が開拓され西永寺が建立されている。

【訂正とおわび】先月号の本文中に『真中から東西に分け』と、ありましたが『西東に分け』でした。

火災は、私たちの財産を一瞬のうちに灰にします……。明治10年以降、本市には7回の大火が起きています。それは明治13年の魚町火災(30戸)、同20年魚町火災(930戸)、同24年一の町火災(100戸)、同26年五六の町火災(30戸)、同36年四の町火災(120戸)、大正6年新飯田横町火災(50戸)、昭和6年白根大火(492戸)、昭和46年二の町火災(16戸)となっています。

あなたの生命と財産を守るため、〝火〟の点検には充分な注意を/

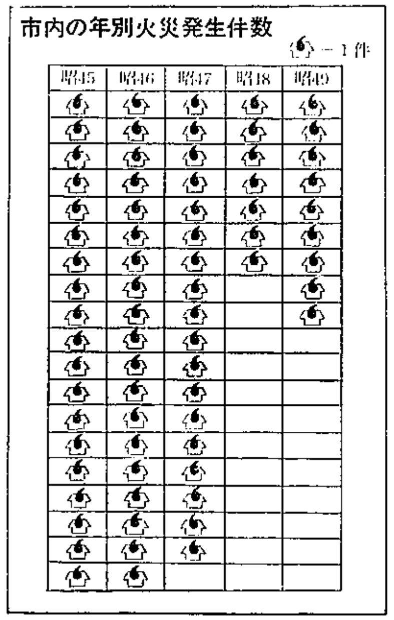
〔写真〕昭和6年の白根大火・死者1人、負傷者100人、損害額は当時で100万円。

火事は恐ろしいものです

生命と財産を守るために….

五か年間の火災件数は百二十件

ふえた犠牲者の出る火災



最近、全国的に火災が多く発生し、それにともない死者もふえている傾向がみられます。

市内でも、一昨年、国道八号線田中地内で、追突された軽自動車で焼死するという、ショッキングな事故がありましたが、昨年もまた、犠牲者が出る火災が臼井地区で発生しました。

このように、私たちの身近かでも、尊い人命が失なわれる暗いできごとが起きています。

四十五年から四十九年までの地区消防組合管内の出火件数は四十五年が二十六件、四十六年三十件、四十七年三十五件、四十八年には減って十二件、昨年は前年より五件多い十七件となっています。

一月から五月までが危険

まず、この五年間で発生した百二十件を、月別にしてみますと、最高が一月の十八件、以下四月十六件、五月十三件、二月と十二月がそれぞれ十二件です。

これをみると、一月から五月までが、件数は六十八件、割り合いで五十六・七%までが、この時期に起きています。

昼間が赤ランプ

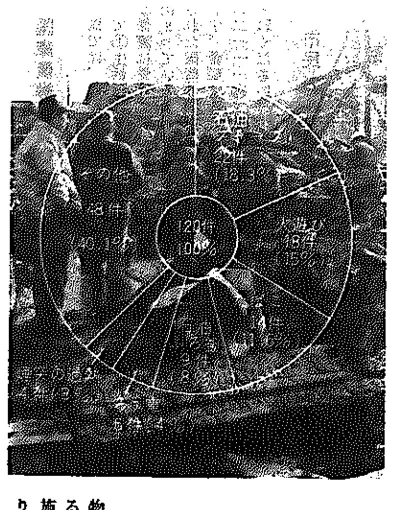
では、一日のうちにどの時間に火災が一番多く発生しているかみてみましょう。

火災は、夜のイメージが強いという感じですが、過去五か年間の発生時間は、昼間(午前九時〜午後五時)が五十二・五%にあたる六十三件でトップ。続いて夕方から夜間が(午後五時〜午後十時)二十四件、深夜(午後十時〜午前五時)は二十一件、朝方(午前五時〜午前九時)の十二件となっています。

原因をみると、朝食昼食時の火の取り扱い不注意や外出時の火の元不点検などが上げられます。

逆にいえば、この時期、この時間帯に、火の取り扱いに気をつければ、今後、何割りかの火災は、防げることになります。

石油ストーブが原因のトップ



左の円グラフは、百二十件の火災の主な原因です。

なんといっても多いのが、石油ストーブの取り扱いの不注意が二十二件。つぎが、子どもの火遊び十八件。たばこの火の不始末十四件、石油ふろかまの過熱からくるもの九件と続いています。

この中で、五年間を通じてかならず原因の上位にランクされるのが、子どもの火遊びです。

火災のこわさを知らない子どもが、興味本位でいたずらする一本のマッチが、不幸を生みます。お子さんのいる家庭では、火のこわさについての、家庭教育も大切かと思われます。

また、石油ストーブが原因の火災は、火をつけたまま灯油を給油し、引火した場合が多く、『少しの手間をはぶきたいばっかりに、大事を招いた』――こんなことのないよう、お互いが充分に注意したいものです。

各家庭でも充分な注意を

現在、消防署は消防車七台(本署四、小須戸二、六分一)と職員六十二人で、消火活動や訓練のほか、町の人たちから防火に対する考え方を強く持ってもらうため、幅広い活動を行なっています。

たとえば、本市でも商店の近代化が進み、スーパーなどの大型店がみられるようになりました。

大型店の場合、多人数の買い物客を収容する能力を持っているわけで、それにともない防火施設の完備も万全でなければなりません。

このような、大型店での惨事を未然に防ぐため、従業員の防火に対する指導や防火診断を実施するなど、市民の安全を守るため、厳しい取り締まりを行なっています。

夜九時は消防の時間

私たちの生活は、『火』をぬきにしては考えられません。皆さんの家庭でも火について関心を持ち、家庭消火器の設置、就寝時の火の元点検などを励行し自分の家からは絶対に火災は起こさない――という心がまえが大事です。

万一、火災が発生したときは「人に迷惑をかけたくない」こんなみえは捨て、一一九番へ急報してください。

夜九時は消防の時間です。

人命救助

勇気ある四人の主婦

内木場さん

佐藤さん

田村さん

鷲尾さん

消防署では、消火活動と人命救助に協力した、鯵潟団地の主婦四人を表彰しました。

表彰された人は内木場すみいさん、鷲尾睦さん、佐藤キクさん、田村ハツイさんで、昨年の十二月、近所で起きた火災を発見。

消防署に連絡するかたわら、バケツリレーで消火活動を行ない、煙にまかれていた、病弱なお年寄りを救助したものです。

消防署では、四人の人たちの落着いた行動に「となり近所のつきあいが、薄くなっている今日、本当によくやってくれました」と、大へん喜んでいます。

無火災地区を表彰

一月六日の消防出ぞめ式で昨年一年間、無火災地区の新飯田、茨曽根、庄瀬、大郷、鷲巻の各消防団を表彰しました。

あなたもいかが/ 灰色景気に強くなりませんか

＝講演会＝ ▽とき 3月1日(土曜)午後三時 ▽ところ 厚生会館ホール ▽入場無料

演題『これからの景気はどうなるか』 講師【経済評論家】戸川猪佐武

主催 白根市・白根商工会